

## 2014年度伝道方針

「礼拝から伝道へと派遣される。」

私たちは、2013年度から中長期的な観点に立って、継続的な伝道方針を掲げています。初年度となる2013年度は「神の国をめざして歩む教会」を教会標語とし、神の国の建設と到来に向けて、礼拝を重んじ、神の導きのもとに歩んで来ました。これを第①項と称しました。

2年目となる2014年度は、教会標語を「礼拝から伝道へと派遣される」に定めまします。これを第②項と称します。これは、2013年度の第①項に接続する形で、「伝道」を主題とした取り組みとなります。この第②項の主張は、礼拝こそ伝道のみなもとであり、そこから外への伝道に押し出されていくというものです。

2015年度以降も目標と課題を掲げて、第③項、第④項・・・と継続的な伝道方針・事業計画を立て、神の国の実現に向けて歩んでいくこととなります。

中長期計画の目標の一つとして、2018年の教会創立40周年を視野に入れつつ、聖霊に導かれて、主の御旨に適う教会として成長し続けることを熱心に祈り求めましょう。

(1) 礼拝そのものが、真の伝道となるように祈り求める。

礼拝は、伝道を含む信仰生活の中心である。

主にあって整えられ祝福された礼拝から出発する。

御言葉と聖餐を通して、主イエス・キリストの救いを確証し、兄弟姉妹の交わりを豊かにされ、そこから伝道に出て行く。

祈禱会に積極的に参加し、伝道の進展のために祈る。

常に、一人でも多くの人が救われるように、ということを祈禱課題とする。

(2) 伝道の旗印を掲げ、伝道を推進する。

屋上の十字架を再建する。

その主にある大きな事業への取り組みの下に、伝道を推進する。一案として、ホームページの新装や更新などについて協議し、教会・集会案内配布を企画する。

(3) イースターなどの三大聖日、子どもと大人の合同礼拝、伝道礼拝、クリスマスの諸集会などを重んじる。

(4) 求道者や新来会者に配慮する。

礼拝後に、求道者や新来会者に声を掛け、求道者会または祈禱会・各部会などへの出席を勧める。

求道者会が充実し、求道者が起こされるように努める。

(5) 子どもや青年への伝道を行う。

教会学校の礼拝はじめ、サマーバイブルキャンプ、ページェント礼拝（年3回）を伝道の良い機会として捉えて、教会全体で協力し活用する。

(6) 信仰の継承と家族への伝道を考える。

家族への伝道を具体的に考える。そのために、お互いに助け合う。

長期欠席者や休みがちな兄弟姉妹への牧会的配慮を心掛ける。

(7) 三教会はじめ、近隣の教会と交流する。

伝道する地域の現況を把握する。